



広報

かつやま

Katsuyama City Newsletter

3月号

No.597

平成17年3月10日発行

さきがけ

真宗大谷派蓮乗寺 (鹿谷町北西側)

地区では、「西側の上のお寺」と親しみをこめて呼ばれている。14世紀終わりから15世紀の初めに本願寺5世徳如の子頓円(曇雲)がここに草庵を営んだのが蓮乗寺のはじまりと伝えられる。頓円は初め藤島の超勝寺に迎えられ、これを一子に譲った後ここに移り住み、後に小松の本蓮寺を建立するためここを去ったという。当時、絶頂期にあった平泉寺や真宗高田派の教線が伸びていた大野郡における本願寺派の初期の拠点のひとつとなった。また、同寺の裏山には浄壇壁と呼ばれる岩窟がある。文明年間、加賀の騒乱を逃れた小松本蓮寺が本尊と共に一時ここに隠れ住んだと伝えられる。

CONTENTS

左義長まつり

健康づくりプラン

HOT話題

出会い、ふれあい

浮かれて



春よ来い



左義長まつり

奥越に春の訪れを告げる「勝山左義長まつり」が、2月26日、27日の両日開かれました。

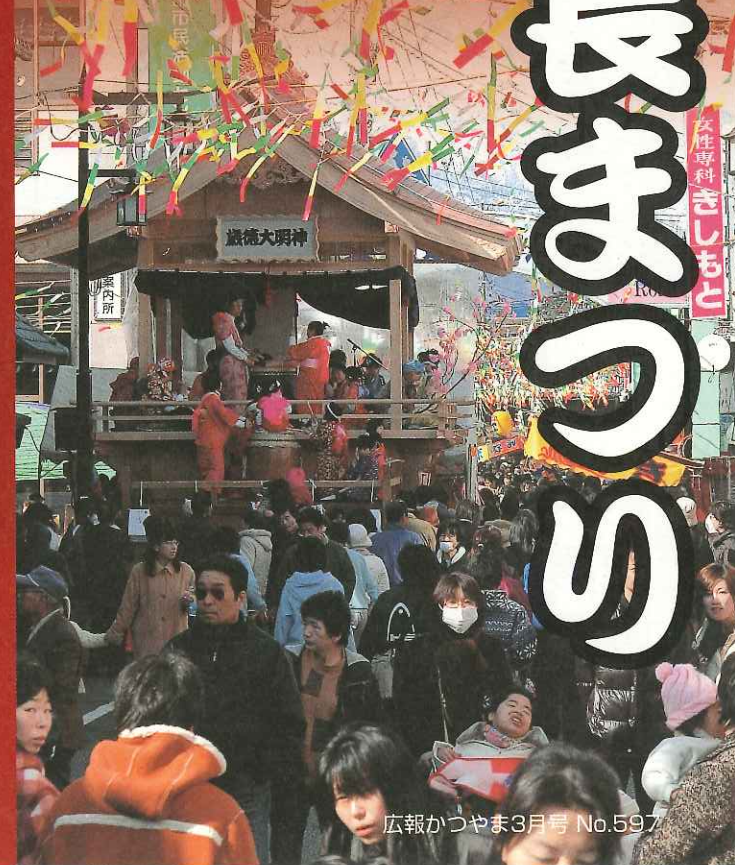
各町内に設けられた12基のやぐらの上では、太鼓や笛、三味線のにぎやかな音色に合わせた浮かればやし

が披露され、訪れた約56000人の見物客らは、その軽快でおどけたしぐさに魅了されていました。

2日間にわたる左義長まつりの終わりとともに、勝山にもいよいよ春がやってきます。



上長淵区やぐらの「一番太鼓」で、祭りがスタート



すこやか勝山

健康づくりプラン

市では、健康づくりのための5か年の計画“第4次保健計画”を策定しました。

第4次保健計画では、“少子・長寿化に対応した人にやさしいまちづくり”をめざして9つの中間目標を設定しました。

自分の健康は自分でつくるために、自分でできることから取り組みましょう。



保健計画策定委員会が山岸市長に計画案を提出

勝山市保健計画策定委員会（委員長：佐々木紘昭氏）は、3月4日、勝山市第4次保健計画案を山岸市長に提出しました。

市では、年度内に計画を策定し、平成21年度までの5年間で各種施策の実現をめざします。



勝山市の特徴

子どもでは

- ① 基本的な生活習慣が乱れている。
(朝食抜き、就寝時間が遅いなど)
- ② 虐待や不登校など心の問題。
- ③ 10代の飲酒・喫煙・性感染症の問題が発生しつつある。

大人では

- ① がん、脳卒中で亡くなる人が多い。

勝山市の三大死因

- 1位 悪性新生物（がん等）
- 2位 心疾患
- 3位 脳血管疾患

- ② 健診結果では、高コレステロール、血糖異常の割合が多い。
- ③ ストレスの多い人が増えている。

高齢者では

- ① 要介護者の人数が増えている。
- ② 結核新規登録患者が高齢者に多い。
- ③ 認知症の高齢者が増えている。

乳幼児期

- 新生児訪問
- 1～2か月児子育て教室
 - 4か月児健康診査
 - もぐもぐごっこ教室
 - 9～10か月児健康診査
 - 1歳6か月児健康診査
 - 2歳児むし歯予防PR
 - 3歳児健康診査

母子クリニック
子育て講座
予防接種
乳幼児訪問



生涯にわたる主な保健事業

大目標

少子・長寿化等に対応した人にやさしいまちづくり

中間目標

1. 子どもが健やかに育つ環境づくり (乳幼児期)
2. 命と健康の大切さを学び、のびのび育つ身体づくり (少年期)
3. 健康を意識し、豊かな人間関係を築く (青年期)
4. 生活習慣病を発病・悪化させないための積極的な健康づくり (成壮年期)
5. 健康寿命を伸ばし、いきいきと安心して暮らせるよう支援する (高齢期)
6. 生涯を通じた心の健康づくり (生涯)
7. 健康危機管理の体制づくり (生涯)
8. 健康づくりを支援する環境づくり (生涯)
9. 環境に配慮した誰もが住みたくなる安全なまちづくり (生涯)

人の健康
(身体と心)

社会の健康
(自然と環境)

少子・長寿化等に対応した

人にやさしいまちづくり“をめぐって”

市民のみなさんに取り組んでいただきたいこと



子どもでは

- ①朝食を毎日食べよう
- ②自分ひとりで悩みを抱えないで
身近な人に相談しよう
- ③アルコール・たばこ・薬物の危険性や
性感染症予防について知ろう

大人では

- ①身体に良いことを一つ実践しよう
(食事・運動・禁煙)
- ②睡眠、休養を十分にとろう
- ③定年後、活動的な毎日を過ごそう



高齢者では

- ①かかりつけ医をもち、病気と
上手につきあおう
- ②年に1回は結核検診を受けよう
- ③趣味や生きがいをもとう
- ④地域活動やボランティア活動に
積極的に参加しよう
- ⑤からだの機能が低下しないよう
運動しよう

社会全体では

- ①毎月21日の「健康の日」には、
家族や自分の健康について考えよう
- ②日頃から感染予防のため、
手洗いとうがいに心がけよう
- ③受動喫煙の防止につとめよう
- ④地元・旬の食材を食べよう
- ⑤地域や職場で健康づくりに
取り組もう



高齢期

すこやか筋力アップ運動
すこやか長寿クッキング
介護予防ための健康教室
結核検診の受診勧奨
訪問指導
(介護保険対象外の人・介護者
・介護予防の支援の必要な人
インフルエンザ予防接種
地域と連携した
生きがいづくり活動の支援

成壮年期

「すこやか」での
定期的事業の実施
すこやか健康運動
すこやか健康講座
すこやか健康相談
すこやか健康診断
すこやか栄養クッキング
生活習慣病予防の
健康教室・相談
訪問指導(健診の要指導者など)
健診未受診者への受診勧奨
産業保健と連携した健康づくり

青年期

福祉健康センター
性感染症予防のPR
不妊治療費助成金交付事業
母子健康手帳交付
妊婦健康診査

少年期

日本脳炎予防接種(小4・中3)
ジフテリア・破傷風予防接種
学校保健と連携した健康づくり
(小6)

健康診査 基本健康診査 がん検診(肺・胃・大腸・子宮・乳)

無料歯科健診
健康の日PR
保険推進員活動・食生活改善推進員活動
救急医療支援事業

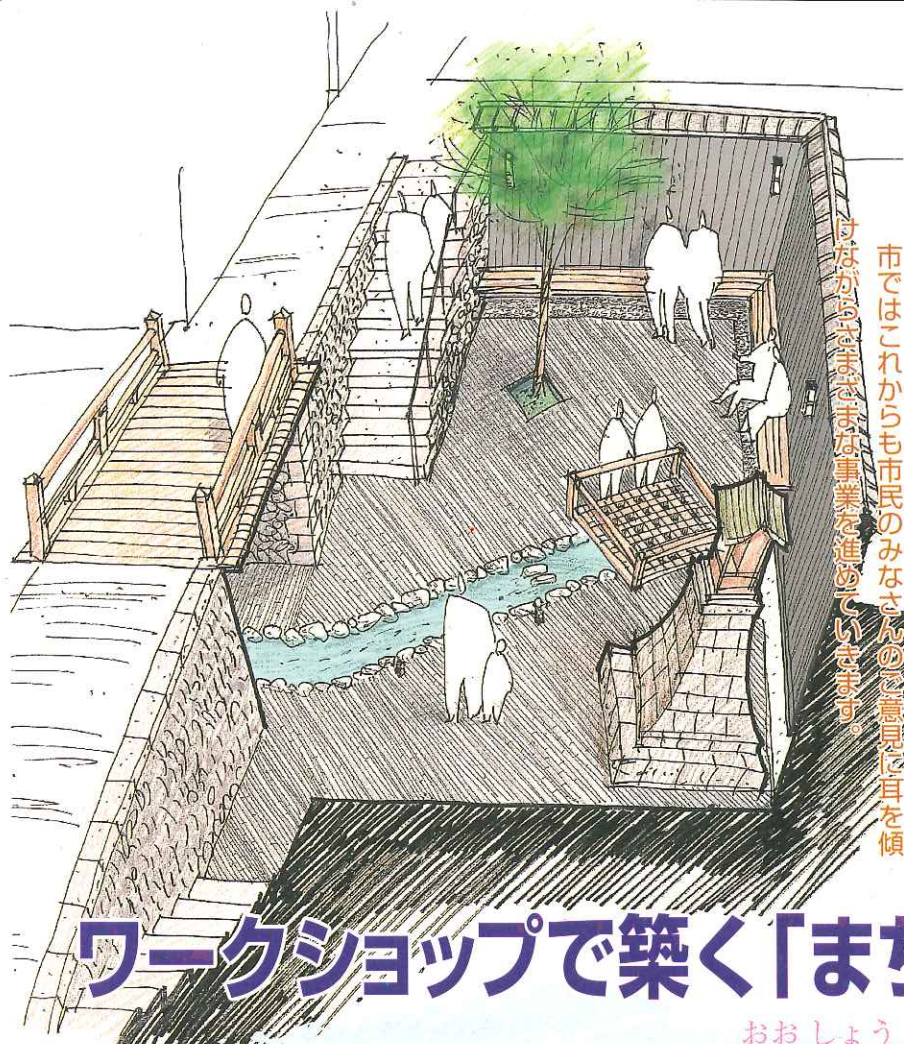


平成20年度までの5か年で市街地の再生を図るために今年度からスタートしたまちづくり交付金事業。これまでに5回のまちなか整備推進会議やまちデザインフォーラムなどを開催してきました。

このたび、大清水広場のデザインが確定し、今月から大清水の工事が、始まります。地元の「大清水まつり」に間に合うよう今年の7月ごろには整備を終える予定です。

今回、平成16年度の事業推進のために開催してきたワークショップに参加された地元のみなさんにご意見をいただきました。

市ではこれからも市民のみなさんのご意見に耳を傾けながらさまざまな事業を進めていきます。



ワークショップで築く「まちのデザイン」

おおしょうず 安らぎと潤いの大清水の再生

あの賑わいをもう一度



森口 一さん
(本町1丁目)

「地元の意見を聞きながら進める」と聞いても最初は半信半疑でしたが、実際にワークショップや説明会で地元の見解を取り入れながら進めていることに感謝しています。

事業を進めたいという市役所の思いと昔の賑わいを取り戻したいという地元の思いが一致したのがよかったのではないかと思います。

小さな頃、水量豊かだった大清水で遊んだことが懐かしい思い出です。これからの整備の中で、あの「遊びの空間」を復活してほしいと思います。

区民の声を届けたい



辰巳聖峯さん
(本町2丁目)

まちなか整備推進会議下後委員会の委員長をとめています。

大清水を大切に守ってきた地元住民として、今回の整備を本心に喜んでいますが、なんといいながらも整備にあたって、行政の都合だけではなく、地元の声に耳を傾

けてくれたことがよかったと思います。委員長として区民一人ひとりの声を聞きながら地元の調整をしてきました。

調整の苦労はありましたが、区民の意見が事業に反映されることでむくわれました。

私たちにとっても責任はありますが満足度も大きいことですね。

次は地域経済の活性化を



豊島恵子さん
(本町2丁目)

市民活動センターで開催された女性を対象にした説明会に参加し、初めて、この事業のことを知りました。

最初は市の財政が厳しいときに、まちなか整備なんてできるのだろうかという疑問でした。それに「まちづくり交付金事業」の意味もよくわからず「なぜ、しなきゃならないの？」と納得できませんでした。いまは、ワークショップへの参加を通して最初に感じた疑問は解決しました。

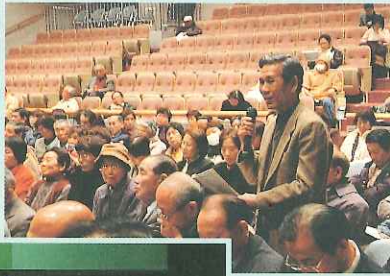
私は、本町に生まれ育ったので、かつての河原町の風情をぜひ取り戻してほしいと願っています。

ただ、当時、河原町の活性化を支えたのは、繊維をはじめとして市内の産業に活気があったからだと思います。今後は、地域経済の再活性化に期待しています。

— 公共交通体系や
福祉健康センターを
テーマに意見交換 —

市民対話集会に 市民250人参加

集会を通じた
さまざまな意
見交換が市政
に反映されま
す。



今年5月の開
設をめざす福
祉健康センタ
ー「すこやか」



これからの市政について市民のみなさんと市が意見交換する「市民対話集会」が2月8日、市民会館で開かれました。

開会のあいさつで山岸正裕市長は、「行政と市民の共通理解を深めるためにも、この集会を年4回は開会していきたい」と述べました。

当日は約250人が会場に集まり、「コミュニティバスなど公共交通体系の見直しや、今年5月に開設予定の福祉健康センター「すこやか」について市側から説明を聞いた後、意見交換が行われました。

参加者からは、「高齢者が利用しやすい路線ダイヤに」、「福祉健康センターでは、若者を対象にした健康教室も開催してほしい」というなど、たくさん活発な意見が出されました。市では市民対話集会での意見や要望を参考にさまざまな計画を進めていきます。

コミュニティーバス ルート変更・増便のお知らせ

4月1日から、コミュニティーバスのルート変更、便数の増便を行います。
くわしいルート図・時刻表については、3月第4木曜日に全戸配布いたしますのでご確認ください。

問 未来創造課 (☎内線233)

勝山市嘱託職員募集

勝山市では、嘱託職員を募集します。採用を希望されるかたは、市販の履歴書様式に必要事項を記入のうえ、担当課に提出してください。

◎克雪管理センター職員

- 嘱託自動車運転手 1名
- ・月額 11万200円
- ・62歳までのかた
- ・普通自動車運転免許をお持ちのかた

申込締切 3月25日(金)

申・問 建設課 (☎内線305)

問い合わせ先 未来創造課 (勝山市エコミュージアム協議会事務局) ☎内線234

5 その他
本事業は、市議会3月定例会において平成17年度予算が認められた後、正式実施となります。

4 提案募集期間
平成17年4月11日(月) ～ 4月18日(月)

3 対象となる取り組み
エコミュージアムを推進し、勝山市の活性化に資する取り組み

2 対象者
・各公民館単位のまちづくり団体
・NPOをはじめとする市民団体
・地域への貢献を検討している企業等

1 事業説明会
日時 平成17年3月24日(木) 午後7時から
場所 市民会館3階第1会議室

「ふるさと元気博物館」
わがまちげんき創造事業説明会

発掘から創造へ！
市内10地区を対象に実施した「わがまちげんき発掘事業」が今年度で終了します。

平成17年度には、「発掘」の成果を新たな「創造」として展開するため、企画提案型事業の「わがまちげんき創造事業」をスタートする予定です。次のとおり事業説明会を開催しますので、ご参加ください。

市内10地区を対象に実施した「わがまちげんき発掘事業」が今年度で終了します。

平成17年度には、「発掘」の成果を新たな「創造」として展開するため、企画提案型事業の「わがまちげんき創造事業」をスタートする予定です。次のとおり事業説明会を開催しますので、ご参加ください。

市内10地区を対象に実施した「わがまちげんき発掘事業」が今年度で終了します。

平成17年度には、「発掘」の成果を新たな「創造」として展開するため、企画提案型事業の「わがまちげんき創造事業」をスタートする予定です。次のとおり事業説明会を開催しますので、ご参加ください。

子育てしながら「親育ち」 「家族育ち」「次世代育成 支援地域行動計画」素案

2月28日に市次世代育成支援対策地域協議会から山岸市長に対し、「勝山市次世代育成支援地域行動計画」の素案が提出されました。素案は、子育て支援サービスの充実や地域資源の活用などの観点から今後の方向性を示しています。

素案を提出した斎藤慶四郎会長は「行動計画の実施にあたっては検証をしっかりとりたい」と申し添えておられました。

市では、この素案をもとに年度内に行動計画を策定する予定です。



山岸市長に素案を提出する斎藤会長と皿沢副会長

「4・8フレンズ」 活動記録をカレンダーに

「4・8フレンズ」は、平成4年の8月に知的発達に障害のある仲間たちが集まって設立した親睦団体です。

このカレンダーは、会長の島田安成さんが得意のパソコンを使って作成したデータを、設立当時から彼らを支援してきた社会福祉協議会事務局長の竹内範囲さんがボランティアの協力を得て仕上げました。

カレンダーを受け取った会員たちは、きれいに印刷された自分たちの活動を眺めながら大喜びの様子でした。



会員らも大喜び



刷りあがったカレンダーを手にする島田会長

こぼれんばかりの お粥に感謝

遅羽町北山地区に400年以上前から伝わる市無形文化財「観音さまのおすすめ」が、2月19日に行われました。

これは、地元の女性にお粥を腹いっぱい食べてもらうことで日頃の女性の家事の労をねぎらいつつ、1年の五穀豊穡を願うものです。

男性たちが「観音さんのおすすめー、めえー！」と、囃し立てながらお粥の入った茶碗を持って座敷に現れると、招かれた女性や子どもらの茶碗の中に容赦なく次々とお粥を大盛りになります。女性らは悲鳴と笑いの中、満腹になるまで食べられることの幸せに感謝しました。



大盛りのおかゆに悲鳴を上げる女性たち

私たちに「いま」できること

平成17年2月16日

「京都議定書」発効！

このかけがえのない地球を救い、勝山の自然を守り、私たちの生活を改善するのは「私たち」一人ひとりの責任です。

2月16日に発効した「京都議定書」は、温室効果ガス排出削減を規定した国際的な枠組みであり、地球温暖化対策の第一歩です。

私たちも家庭、企業、行政が一体となって環境にやさしいライフスタイルをこころがけていくことが重要です。

勝山市で「いま」はじまっている家庭、企業、行政での取り組みをご紹介します。



企業での取り組み

地球環境を保全し、持続可能な社会を実現するため、さまざまな企業が環境について真剣に取り組み始めています。

これまでのばくせんとした「環境にやさしい企業」といったイメージづくりから一歩脱却して「環境経営」の推進に会社をあげて取り組み始めているところもあります。

勝山の代表的な地場産業である「繊維産業」。その繊維を代表する企業の一社「ケイター株式会社」もそのひとつです。

環境経営について、生産本部長の滝川克己さんにお話を伺ったところ、「これまで、産業廃棄物や排水の基準などは、法律で定められた規制値を守ることに主眼があった。しかし、私たちは経営のあらゆる側面に『環境』の視点を取り入れ持続可能な社会の一翼を担いたいと考えている」と、いうことでした。

また、近隣の公園や駅舎、街路の清掃などの取り組みや、社内の自動販売機の紙コップを使わずに空のペットボトルを繰り返し使う試みなども始まっているそうです。

今後は、こうしたノウハウを市内の他の企業にも広めていきたいということです。

行政での取り組み

市では平成14年12月に環境マネジメントシステムの国際規格である「ISO14001」を認証取得しました。（本庁舎、市民会館、教育福祉会館を対象）

現在は、「勝山市環境方針」を定め、こ

れにもとづき、業務をすすめています。

具体的には、環境に配慮した事務用品を積極的に購入する「グリーン購入」の推進、低公害車の導入、庁内のリサイクル運動の徹底などのほか、イベントの実施に際しても環境への配慮を考えるようにしています。

また、市民のみなさんが環境にやさしい生活ができるように、公共交通機関の利便性の向上を図ったり、低公害車や太陽光発電の補助を行ったり、不用品の交換情報を提供しています。

20世紀は、「大量生産、大量消費、大量廃棄」の社会でした。21世紀は、環境の保全をめざす「循環型社会」への転換が求められています。

市では、環境にやさしいまちづくりをめざしています。

家庭での取り組み

市が認証取得している「ISO14001」の理念は「目標を立てて実行し、定期的に見直す」といったシステムをとり入れて環境にやさしい組織をめざすものです。

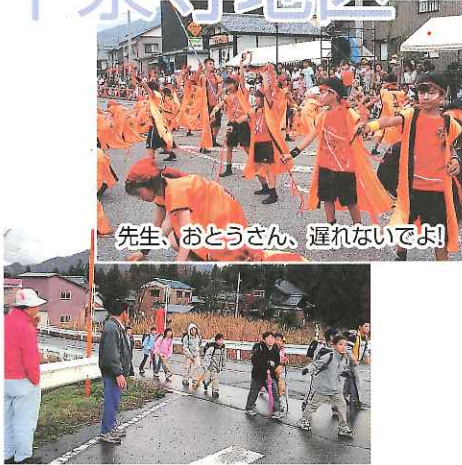
家庭でも簡単にこの理念に取り組むことができるよう昨年9月にスタートしたのが、「かつやまエコファミリー」です。

「ごみの減量とリサイクル」、「省エネ」、「環境」。この三つのチャレンジ目標からひとつを選んで行動を取っていただくことになっています。

すでに市内で約40家族のみなさんが「かつやまエコファミリー」に挑戦しています。（16ページ参照）

子どもといっしょに地域も育つ

平泉寺地区



先生、おとうさん、遅れないでよ!

推進委員会が子どもたちを見守ります

元氣印の杉の子をめざして

勝ち山夏物語「かちやまワッショイ」への参加。児童と高齢者がいっしょに行う夜回り活動。町民運動会には高校生も参加。この町では、推進委員会が呼びかけて子どもの居場所づくりに取り組んでいます。

昨年の5月に各地域に「次世代育成アクションプラン推進委員会」が組織されて10か月。勝山地区以外の地区では、地域と小学校区とが一致しているため、いち早く推進委員の活動が始まっています。来年度は勝山地区でも来年度は成器西小学校区、成器南小学校区に分かれて活動がスタートする予定です。小学校区を越えた連携、子どもたちの安全を地域で守る「見守り隊」の活動など、「わがまち子育て支援」の取り組みはこれからが本番です。「地域における文部科学省をめざして！」をスローガンに各地区で実施してきたさまざまな取り組みをご紹介します。

北郷地区

子どもと大人が 出会う明るいまち

4年生には推進委員会が「わくわく通学合宿」を。5年生にはボランティアが協力して「スキー教室」を。6年生は先生といっしょに「修学旅行」へ。この町では、地域全体で子どもたちに「思い出いっぱい」の時代を提供していきます。



おかあさんが来なくても
歯磨きを忘れないで



大人も子どももいっしょに
楽しいわくわく通学合宿

鹿谷地区



北部中学校 brassバンドは雪まつりの華

今日はほくらも接待係

雪まつりに中学生の 活躍の場を

すっかり冬の風物詩になった「鹿谷町雪まつり」に、今年は中学生も大活躍。北部中学校 brassバンドの舞台演奏に大人も子どもも大喜び。この町では、イベントを利用して子どもたちの社会参加を後押ししています。

遅羽地区



お手前のときはさすがに神妙です

地域の運動会では中学生も裏方で

地域行事を次世代育成の きっかけに

地域の行事では小中学生一人ひとりが運営を担っています。遅羽児童館を活用して子どもたちを対象に茶道教室を開催。この町には、地域社会で子どもを育て、そして共に育っていく気運があります。

猪野瀬地区



う～ん、本番までに間に合うかな…



用意はいいか！いのせー心

この町では、次世代育成のために高校生
の社会参加を促進しながら地域が一丸
となって楽しんでいます。

参加した真夏のイベント。
この町では、次世代育成のために高校生
の社会参加を促進しながら地域が一丸
となって楽しんでいます。

地域のみみんなで

「いのせー心」！

野向地区

青年会議所と
いっしょに遊
歩道の遊具造
り



これが野向っ子の泥りんピック！

青年会議所の人たちの協力を得て、高
尾山の遊歩道に遊具を設置。そして他の
小学校の子どもたちを招待し、「泥りん
ピック」を開催しました。
この町では、小規模校の特性を生かし、
交流による体験活動を推進しています。

遊歩道と泥だらけの運動会

荒土地区

子どもと大人が

いっしょに活動

地域の大人が、子どもたちの
第二の先生となれるよう「そば
打ち」、「門松づくり」、「炭焼き
体験」などで世代間の交流を図
ります。
この町では、地域の子どもと
地域の大人がいっしょに活動す
るための企画をしています。



地域の名人から
そば打ちを伝授



ぼくが造った！
わが家の門松

次世代育成 アクションプラン推進委員会

活動の目的

家庭・地域・学校が連携し、勝山
市の次代を担う乳幼児から青年にい
たるまでの「わがまち子育て支援次
世代育成」のありかたを考える

活動の重点

- ☆ 特色ある地域活動づくり
- ☆ 青少年の地域活動への参加
- ☆ 各種事業への主体的な取り組み

委員会の構成

区長会・子ども会育成会・小
中学校PTA・母親クラブ・小
中学校・民生委員など

村岡地区



お餅で、どうやってできるんだね



プロの読み聞かせに子どもたちもわくわく

地域のひととともに活動を
中・高生をまじえ、村岡山城の話
を熱心に聞いたり、そば打ちと餅つ
きを体験したり、くまの子文庫では
お誕生会などを開催。
この町では、子どもたちが役割を
持つて、地域の
かたといっしょ
に活動ができる
事業を開催して
います。



中学生も雪像づくりに参加



小中学校はどうなるの？

勝山市の小中学校の望ましいありかた検討会

● 出生数と児童生徒数の変化 ●

昭和35年（1960年）、45年前の勝山市の出生数は704人でした。（第1表参照）

ところが昨年1年間の出生数は182人。

わずか半世紀弱で生まれる子どもの数が4分の1まで減少したことになります。

● 小学校では、いま ●

少子化の結果、平成17年度には市内の小学校のうち3校、13クラスで10人以下の学年ができます。

平成22年度にはこれが、5校、20クラスに増加します。

もちろん法律により複式学級などの対応をしますが、その後も少人数クラスへの増加傾向が続いていきます。

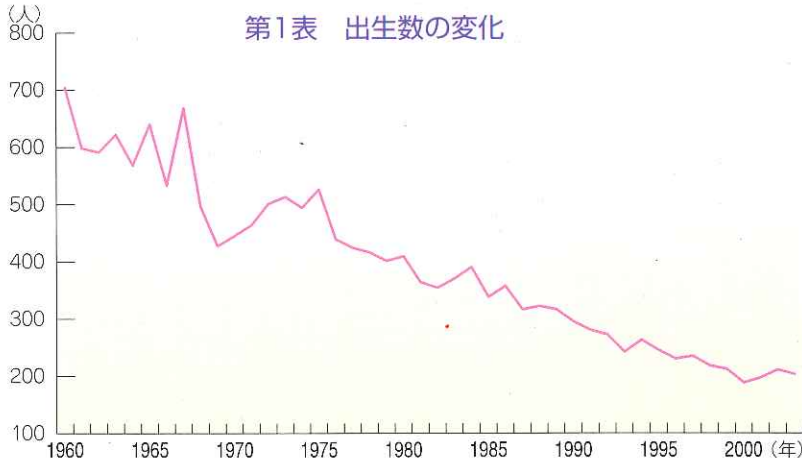
● 検討委員会とわたしたちの役割 ●

この状況を受けて市では、昨年7月に関係者や有識者による「小中学校教育の望ましいありかた検討委員会」を設置しました。

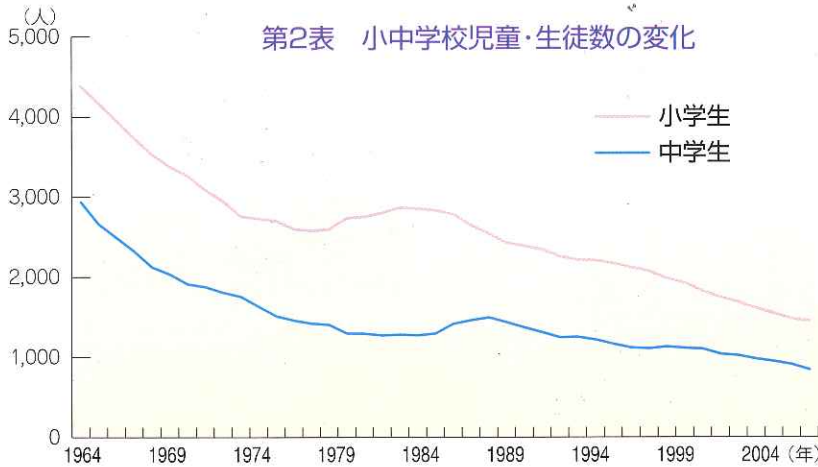
検討委員会は平成18年度までの3か年で小中学校教育の望ましいありかたや適正な配置について検討し、最終報告をまとめます。

また、3月中には、中間報告を取りまとめるべく作業を進めています。少子化による変化をどうやって受け止め、どのように対応していくのか。行政、地域、家庭それぞれが考えていく必要があるのではないのでしょうか。

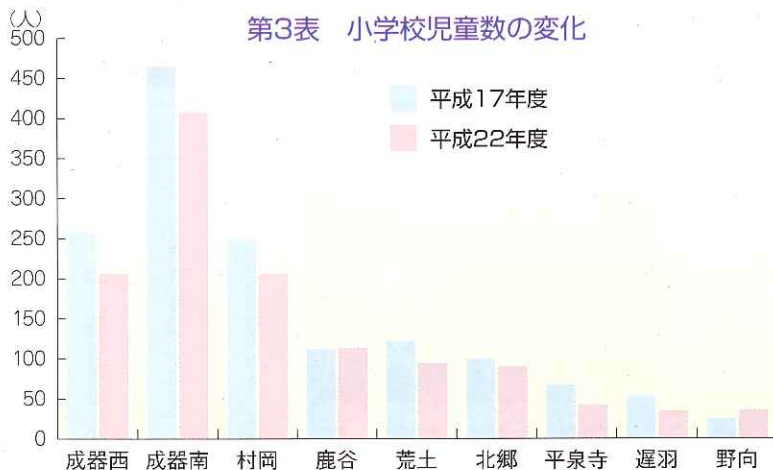
第1表 出生数の変化



第2表 小中学校児童・生徒数の変化



第3表 小学校児童数の変化



第4表 中学校生徒数の変化

